

平成24年第7回日野町議会定例会（2日目）

平成24年9月18日 午前10時 開議

一般質問通告表

通告順	氏名	質問事項
1	中原 明	<p>「きらりと光るまち」日野町まちづくりビジョン 2012-2016 について</p> <p>この計画は町政運営の根幹となる町づくりの目標を明らかにして、基本方針を示す。広範な課題に取り組む総合的な成長戦略の要であります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 5年後の姿を目指して 2. 町づくりの目標 3. 町づくりの方向性として <p>産業・観光、福祉・生活環境、教育・文化、若者定住・子育て支援、地域づくり、行財政6項の具体策が示されているが、これをどう進められるか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2012年1月発行の広報ひのにおいて「きらりと光るまちづくり」を目標に、町では第5次日野町総合計画を策定中です。総合計画策定に関するご意見をお寄せください。9ページの紙面で概要が掲載されました。しかし、3月には日野町まちづくりビジョンに変更された根拠は何か。 2. この計画の変更を町民に対してどう説明責任を果たされますか。 3. ビジョンの実施計画が示されなければ、絵に描いた餅にすぎない。年次実施計画を示されたい。 4. この計画を推進するには、年次別に選択と集中して、事業の効率化を図るために現状と課題、成果目標、実施計画を立て「成果重視」「経営意識」「説明責任」を基本理念として、住民に満足度の高い行政サービスを提供するには、数値目標を立て成果の検証が必定と思いますが、どうお考えでしょうか。

2	中原信男	<p>*若者世代及びIターン、Uターン者の定住促進対策について</p> <p>この問題は、同僚議員からも何回か質問され、議会でたびたび議論を重ねてきた経緯がありますが、もう一つ切り札になるような政策が見えてこない。</p> <p>人口の減少を極力抑え、町の活性化を維持、推進していく目的のため、町独自の政策が必要に思う。</p> <p>町有地、または民間の空き地を有効に活用し、住宅地として確保し、若者世代、Iターン、Uターン者に優先的に提供する取り組みをする考えはないか。</p> <p>*日野川の現状、特に水質について</p> <p>近年、川魚が減少し、昔ならどこにでもいた、ウグイ、ハエなどあまり見ることができなくなった。特に今年は、アユの数が少なく、放流した稚魚も餌になる藻が石につかない為育たないなど、原因を調べる必要がありはしないか。</p> <p>『きらりと光るまち』日野町まちづくりビジョンの中に産業・観光分野の取り組みに地域資源と地域産物を生かした物づくりの推進、「水産業でアユ釣りの観光資源化や水資源を生かした淡水魚などの養殖と飲食店での活用推進につとめます」と明確に書いてある。</p> <p>目的達成のために、豊かな日野川を後の世代に残していく必要があると思う。日野川の水質調査を行い、問題があれば改善策を講じるよう関係機関に要請する。</p>
---	------	--

<p>3</p>	<p>松本利秋</p>	<p>*福祉のまちづくりについて</p> <p>本町は、少子・高齢化と過疎化が進み、高齢化率は42%に達しています。特に、山間地域の集落は50%を超え、一人暮らしや老人夫婦世帯が増えています。高齢者が生きがいを持って、安心・安全に暮らして行ける社会を構築していくことが急務です。</p> <p>そこで、日常生活圏域ニーズ調査を基に、日野町高齢者福祉計画で、高齢者が安心して生きいきと暮らせるまちづくりを。</p> <p>また、出かける行政の取り組みについて伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特に、地域住民の相互援助による高齢者福祉の具体的な取り組みを伺います。 2. 今年の4月から出かける行政に取り組み、積極姿勢が見受けられます。その成果と課題を伺います。 <p>*町が制定した憲章・シンボルの活用と新しい町誌の発刊計画について</p> <p>本町は、町民憲章を始めとして、町の花、町の木、町の鳥を制定し、町の誇りとして親しみこれを生かしてまちづくりに繋げて行こうとしています。</p> <p>また、町制施行から数えて節目ごとに記念行事が行われて来ました。</p> <p>町のシンボル等の活用と今後の計画について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 町のシンボル等を活用したまちづくりの取り組みを伺います。 2. 町制20周年を前にして、町の木(スギ)と町の花(ツツジ)を制定し、これを山村開発センター横(駅側)に記念植樹され、すくすくと成長していました。 ところが、今年に入りツツジが伐採されたか(?)無くなりました。この記念樹はどのようにされますか。 3. 町制10周年を記念して刊行された「日野町誌」がありますが、発刊されてからもう42年が経過しました。本町は、あと2年すると55周年を迎えます。 記念事業の一つとして、「温故知新」のことわざがあるように、これからのまちづくりのためにも、新しい町誌を発刊する考えはありませんか。
----------	-------------	---

4	小谷博徳	<p>*本町の義務教育、特に学力向上について問いたい。</p> <p>少子化の波は、急激に押し寄せ、年間の出生数は10人に満たない状況が現実化してきた。そういう中であって、本町教育委員会は、小学校教育は当分の間統合せず現状で行くという答申を出されました。都市部では1クラス35人という現実であれば本町は、5人・10人という学級を含めた少人数学級で成り立っている。</p> <p>この少人数という過疎地特有の実態を逆手に取った、少人数学習をフルに活用すれば、素晴らしい学習効果が期待できないものか。</p> <p>小規模校である本町小中学校で、教育するうえでの長所と短所はどのような形で表れているか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育は100年の体系とよく言われる。ITが主流となった今日、そんな悠長なことは言っておれない。小規模校としての学習の成果はどのような形で表れているか。 2. 立命館大学陰山教授を招いて教育講演会を企画された。講演前と講演後で成果は形に表れているか。 3. 本町の学力はどの程度の水準か。 4. 今後、学力向上についてどのような目標を掲げ、どのようなプロセスで目標達成に向かうのか。
---	------	---

5	安達幸博	<p>*本町の防災について</p> <p>災害は、忘れたころにやってくると言いますが、鳥取県西部地震の被災地であった本町は、防災についての意識は高いと思います。しかし12年の年月は、少しずつその思いも薄れてしまう気がします。機会あるごとに検証し言い伝え、そのつどの対策を考えることが重要です。</p> <p>先の根雨町内の火災については、広域消防から各種団体に感謝状が贈られました。この背景にある課題を検証しその対策も新たな政策課題ととらえます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 西部広域消防体制は、十分な人員が配置されていますか ② 広域消防と本町消防団の関わり方 ③ 消防団の課題 ④ 防火水槽の整備計画は ⑤ 自主防災組織、自治会防災活動、装備の支援は ⑥ 災害情報の町民への知らせ方について ⑦ 防災無線、メール、庁舎サイレンのルールは ⑧ 消防委員会と防災委員会について ⑨ 防災計画の策定経過について <p>*公共物の維持管理について</p> <p>根雨の通称本通りと言われる道路は、道路面のでこぼこが増えてきました。下水道配管工事から、あるいは道路にそって流れる水路が原因とか聞きおよびます。アスファルトの下部が空洞になっていて危険を感じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 道路状態の実態調査が必要ではありませんか。
---	------	---

6	佐々木求	<p>*防災計画について</p> <p>今日の災害は、かつてない突発的な集中豪雨や、今後確実視されている「南海トラフ地震」が常識を覆す規模の予想となっている。住民の防災意識を高めたり、地域の実情を踏まえたより具体的な計画を策定する必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 県の示した「土石流マップ」はどこまで住民に説明されたか。 2. 反応や意見はどうか。 3. 見えて来た課題はあるか。 4. 住民が地域の実情や、特性を理解したうえで、より具体的に計画に盛り込むなどの方策に取り組んでいるか。（来年3月に出来る「計画」を地域に持ち込んで、具体化する必要性） <p>*職員の集落担当制について</p> <p>具体的な動きが見えてこない。各自治会において、集落担当制の意義やルールをよく理解していただく必要があるのでは。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現時点での実態を伺いたい。（集約できているか） 2. 具体的な実態の検討が行われ対応がなされ、職員の共通の理解となっているか。 3. 具体的な相談窓口としての役割が、今後大きくなる可能性があるのでは。 4. 高齢者の冬場に向けた訪問活動とはどうリンクさせていかれるか。
---	------	--